

## 山城新伍

今週の警告

俳優 享年70歳

3歳の結婚と離婚を繰り返した山城新伍は「自分だけの死を望む」との遺言を残して、1人は静かに息を絶した。

ま

た一人、「昭和の大スター」が急逝した。12日、俳優であり、タレントとしても人気だった山城新伍さんが脳梗塞性肺炎のため死去。「チョロメチョロメ」という流行語を生み出し、一時は15本以上の番組で司会を務めるなど栄華を極めたが、浮気が原因で2度の離婚を繰り返し、一人暮らしを余儀なくされる。西洋には孤独死を嫌い、

英検券を事実上引渡。最期の瞬間は特別看護婦人ホームで迎えたという。一人類には絶縁状態を叩きつけられ、葬ま

で扱われていたことから、「大層離子に決いて、またも孤独死」と見る向きもあるが……。孤独死に関する著書も多い「遺品整理」専門会社・キーパーズ代表取締役の吉田太一氏は言う。「孤独死の定義は死後しばらくして遺

## 決して他人事ではない。“昭和の大スター”の相次ぐ孤独死から学ぶべきこととは？

PEOPLE  
this week 今週の顔

時代の人気マルチタレント、その悲しすぎる晩年とは？

映画「仁なき敵い」などに出演し、「どん丸餅」のCMや数々のバラエティ番組でお茶の間の人気者に。70年には映画「ミスターどん丸餅」で第5回も、79年からは人形劇を繰り返して、近所のスーパーを徘徊する姿が頻りに目撃されるように。特別看護婦人ホームに入所後、「ここが私の家だ」と語る一方、「娘に会いたい」と嘆いていたという

体が発見されることを言いますが、山城さんの場合、孤独感を抱つて亡くなったのは明白。孤独死と言つてもいいでしょうね。解剖の結果、大原麗子さんは死後3日で見えられたと判明しましたが、これ以上発死が漏れていたら、相当な死臭が漂っていたはず。死臭除去には1〜2週間はかかるので、自宅葬などできないレベルです」

相次ぐ孤独死は決して他人事ではない。事実、孤独死は間違いなく増加している」と吉田氏は断言する。

「若い独身者の孤独死も多いですし、ウチの会社だけで年間400件に達するほど。似たような業者は100社近くありますから、絶対数は確実に増えています。孤独死は死臭や虫を生み、賃貸ならは陳状回欄に30万円以上はかかる。家主や近所に迷惑をかけ、家族や友人には「もつと連絡してあげば……」と罪悪感を抱かせてしまつて孤独死は、生前から予防すべき社会問題なんです。孤独死の増加を「警告」とどうえ、自分の生活態度を見直し、友人をつくるとか、ご近所に挨拶をするとか、意欲向上に努めることが必要ですね」

我ら「平成の小リーマン」でも、周りにかける迷惑に変わりはないのだ。